

百濟敬福傳

三三五〇 王子(廿八日)、刑部の卿(從三位百濟の王敬福)を遣はす。其の先は百濟國義慈王より出づ。高市岡本宮(馭)宇(舒明)の御世に、義慈王は其の子豐璋王及び禪廣王を遣はして入りて侍らしむ。後の岡本の朝廷(齊明)に泊り、義慈王が兵敗れて唐に降る。其の臣佐平福信、社稷を尅復して、遠く豐璋を迎へて絶統を紹ぎ興す。豐璋、慕基の後に諱を以て福信を横殺す。唐兵之を聞きて復州を攻む。豐璋我が救兵と與に之を拒ぐ。救軍利あらずして、豐璋船に駕して高麗に遁る。禪廣因りて國に歸らず。藤原朝廷(持統)、號を賜ひて百濟の王と曰ひ、卒して正廣參を贈る。子百濟の王昌成、幼年父に隨ひて歸朝し、父に先だちて卒す。飛鳥淨御原の御世(天武)に小紫を贈り給ふ。子郎虞、奈良の朝廷の從四位の下攝津の亮敬福は即ち其の第三の子なり。放縱にして拘らず、頗る酒色を好む。感神聖武皇帝殊に寵遇を加へて賞賜優厚なり。時に士庶ありて來りて清貧なることを告ぐれば毎に他物を假して望外に之を與ふ。是れに由り頻りに外任を歴れども家に餘財無し。然して性了辨にして政事の量あり。天平年中に仕へて從五位の上陸奥の守に至る。三三五四 時に聖武皇帝、盧舍那の銅像を造り給ふ。冶鑄云に畢りて塗金足らず。而して陸奥國より驛を馳せて、小田郡より出して黄金九百兩を買ふ。我が國家、黄金此れより始めて出たり。聖武皇帝甚だ以て嘉尚し、從三位を授け宮内卿に遷す。俄にして河内の守を加へたり。勝寶四年に常陸の守を拜し、右大辨に遷る。頻りに出雲・讃岐・伊豫等の國の守を歴たり。神護の初に刑部卿に任ぜらる。薨する時年六十九なり。

『続日本紀』卷二十七 天平神護二年五月 陸奥守 敬福 傳
 定冊 九七〇〇頁
 發行所 今泉 忠三 發行所 今泉 忠三
 印刷 片岡 英三 印刷 片岡 英三
 製本 新生製本株式会社 製本 新生製本株式会社
 行所 川崎 川崎 書店 行所 川崎 川崎 書店
 電話 044-777-1111 電話 044-777-1111
 郵便番号 210-0801 郵便番号 210-0801
 ISBN-10: 4-334-4334-0 ISBN-13: 978-4-334-43340-0

百濟王氏の系譜

